

老年看護援助論

必修 開講年次：2 年次後期 科目区分：演習 単位：1 単位 講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：老年期の加齢的变化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び、高齢者およびその家族を対象とした基本的看護について学ぶ。老年期にある人の加齢や健康障害に対する診断・治療過程における看護過程の展開について自立・自律支援の視点から学ぶ。

- 到達目標**：
1. 高齢者の状態を総合的に評価する方法について説明できる。
 2. 高齢者が地域で生活することを支えるための看護の継続性について説明できる。
 3. 高齢者の診断過程における看護について説明できる。
 4. 高齢者の急性期・周手術期における看護について説明できる。
 5. 高齢者の回復期・慢性期における看護について説明できる。
 6. 薬物療法を受ける高齢者と家族への看護が説明できる。
 7. 施設における看護について説明できる。
 8. 人生の最終段階にある高齢者と家族への看護が説明できる。
 9. 生活障害を持った高齢者の日常生活への影響や自立へ向けた身体技法について説明できる。
 10. 老年看護の展開方法について理解し、事例を用いて看護理論に基づいて看護計画を立案できる。
 11. 看護過程の発表を通して老年看護の課題が説明できる。
 12. 老年看護の課題についてGeriatric Nursingを用いて検索し、考察することができる。
 13. 高齢者特有の疾病と治療、加齢に伴う諸機能の変化を持ちながら地域で生活している高齢者について説明できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎村松 真澄・原井 美佳・前沢 政次

■**授業計画・内容**：

第 1 回	コースガイダンス 課題提示、高齢者の総合機能評価	第 9 回	高齢者の強みを生かす看護理論に基づく老年看護過程 (事例展開1)
第 2 回	看護の継続性：外来、入院、退院、在宅ケアの看護	第 10 回	高齢者の強みを生かす看護理論に基づく老年看護過程 (事例展開2)
第 3 回	高齢者の診断過程における看護／薬物療法を受ける高齢者の看護	第 11 回	加齢に伴う諸機能の変化：高齢者に留意すべき病態・疾病の諸特性
第 4 回	高齢者の急性期・周手術期における看護	第 12 回	呼吸、循環器疾病
第 5 回	高齢者の回復期・慢性期における看護	第 13 回	消化機能疾患、内分泌・代謝疾患
第 6 回	高齢者の施設における看護	第 14 回	神経系疾患、精神疾患、認知症、うつ病
第 7 回	人生の最終段階にある高齢者の看護	第 15 回	骨・運動器疾患
第 8 回	高齢者の治療過程における自立へ向けての身体的技能／高齢者の生活障害の模擬体験		

■**教科書**：奥野茂代他編：「老年看護学概論と看護の実践第5版」,東京,ヌーベルヒロカワ,2013 (2年次前期に購入済み)
新版 認知症の人びとの看護 3版 中島紀恵子著、編集 医歯薬出版

■**参考文献**：奥宮暁子他：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程,東京,医歯薬出版,2012

奥野茂代他編：「老年看護学老年看護技術第5版」,東京,ヌーベルヒロカワ,2013

正木治恵、真田弘美編集：看護学テキストシリーズNiCE老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは,東京,南江堂,2013

堀内ふさ他編：ナーシンググラフィカ老年看護学①「高齢者の健康と障害」,東京,メディカ出版,2013

大淵律子他編：ナーシンググラフィカ老年看護学②「高齢者看護の実践」,東京,メディカ出版,2013

■**成績評価基準と方法**：レポート20点、定期試験80点により総合的に評価する。但し、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 1~9	到達目標 10~12	到達目標 13		
定期試験	◎	◎	◎	内容の理解	80%
レポート		◎		レポート内容の適切性・妥当な記述量	20%
授業態度	◎	◎	◎	講義・演習への取り組み姿勢	評価時の参考とする
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：老年看護学概論

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：高齢者が体験している様々な治療過程の困難さを追体験できるために、学修に取り組んでください。集中講義であるため、予習、復習に心がけてください。各講義担当者は開講初回に紹介します。